

■氏名 : 福田裕美

【研究業績】

■著書・編著書・CD・楽譜出版等

表題	単著・共著	発行年月	出版社・発行元
『教科教育学シリーズ⑤音楽科教育』	分担執筆 (監修:橋本美保・田中智志／編集:加藤富美子)	2015年5月	一藝社
『日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブック』	分担執筆 (編集:東京音楽大学文化庁補助事業推進室)	2022年2月1日	東京音楽大学文化庁補助事業推進室

■学術論文・研究報告書等

表題	単著・共著	発行年月	発行雑誌・学会等の名称
「能郷の猿楽能—民俗芸能の継承問題に関する一考察—」	単著	2002年3月	『民俗音楽研究』第27号 (日本民俗音楽学会)
「文化財保護政策の研究—民俗芸能の継承問題を中心に—」	単著	2003年3月	修士論文 (東京藝術大学)
「文化財政策における民俗芸能の継承にかかわる課題についての研究—「大江の幸若舞」「水海の田楽能舞」「能郷の能・狂言」を事例として—」	単著	2004年3月	『文化経済学』第4巻第1号 (文化経済学会<日本>)
「宮城県登米郡豊里町に伝わる上町法印神楽の継承」	単著	2005年3月	『民俗音楽研究』第30号 (日本民俗音楽学会)
「文化財政策における民俗芸能の保護の再検討—国際文化交流事業の展開の過程から—」	単著	2005年3月	『文化資源学』第3号 (文化資源学会)
「民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究—地域社会における保護政策の運用を中心に—」	単著	2006年3月	博士論文 (東京藝術大学)
「地方公共団体による民俗芸能の記録作成・記録の保管をめぐる課題—平成20年度文化庁委嘱事業「地方公共団体が保有する民俗芸能の保護政策に係る資料の収集とデータベース化」報告」	単著	2010年3月	『民俗音楽研究』第35号 (日本民俗音楽学会)
「民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究—地域社会における保護政策の運用を中心にⅠ:民俗芸能の継承をめぐる「地域」の枠組みの検討—」	単著	2010年9月	『音楽芸術マネジメント』第2号 (日本音楽芸術マネジメント学会)
「民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究—地域社会における保護政策の運用を中心にⅡ:地域社会における民俗芸能の継承と文化財政策の有機的結合に向けて—」	単著	2011年9月	『音楽芸術マネジメント』第3号 (日本音楽芸術マネジメント学会)
「地域の文化資源を活用した企画の意義と可能性～糸島市誕生記念式典『異都(いと)ジャズフェ	共著(井手詩織・福田裕美・芦川	2011年9月	『音楽芸術マネジメント』第3号 (日本音楽芸術マネジメント学会)

『スティバル』を事例として～」	紀子)		
「民俗芸能公演の企画制作について～現場から見た現状と課題～」報告	単著	2011年9月	『音楽芸術マネジメント』第3号 (日本音楽芸術マネジメント学会)
「さくらホールだからこそできる支援活動を--北上市文化交流センターさくらホールの取り組み (特集 復興に向けて--音楽団体・公共文化施設の取り組み)」	単著	2011年9月	『音楽芸術マネジメント』第3号 (日本音楽芸術マネジメント学会)
「日本における「国立民俗舞踊団」設立に向けた動向―昭和40年代を中心に―」	単著	2013年10月	『音楽芸術マネジメント』第5号 (日本音楽芸術マネジメント学会)
「1960～70年代のアジアの伝統芸能との出会い―民俗芸能公演と音楽教育の視点から―」	共著 (福田裕美・加藤富美子)	2015年12月	『東京音楽大学研究紀要』第38巻 (日本音楽芸術マネジメント学会)

■学会・学術研究会での発表・講演等

表題	単著・共著	実施年月／会場	発表学会の名称
「能郷の猿楽能」	単独	2001年3月／ お茶の水女子大学	東洋音楽学会 第437回定例研究会
「能郷の猿楽能」	単独	2001年4月／ 法政大学能楽研究所	楽劇学会 第32回例会
「文化財保護政策の研究―民俗芸能の継承問題を中心に―」	単独	2003年3月／ 上野学園日本音楽資料室	東洋音楽学会 第3回東日本支部定例研究会
「宮城県登米郡豊里町に伝わる上町法印神楽の継承」	単独	2004年9月／ 七尾サンライフプラザ	日本民俗音楽学会 第18回七尾大会
「民俗芸能をめぐる国際文化交流事業―文化財保護の視点から―」	単独	2004年10月／ 東京大学	文化資源学会 第6回研究会
「民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究―地域社会における保護政策の運用を中心に―」	単独	2008年11月／ 東京芸術大学	日本音楽芸術マネジメント学会 第1回研究大会
「民俗芸能の記録保存に関する一考察―平成20年度文化庁委嘱事業「地方公共団体が保有する民俗芸能の保護政策に係る資料の収集とデータベース化」より」	単独	2009年11月／ 東京芸術大学	日本音楽芸術マネジメント学会 第2回研究大会
「地方公共団体による民俗芸能の記録作成・記録の保管をめぐる課題―平成20年度文化庁委嘱事業「地方公共団体が保有する民俗芸能の保護政策に係る資料の収集とデータベース化」報告―」	単独	2009年11月／ アクティシティ浜松	日本民俗音楽学会 第23回浜松大会
「「無形の文化遺産」の記録保存に関する一考察～無形文化財としての伝統芸能と無形民俗文化財としての民俗芸能の記録保存の現状から～」	共同 (福田裕美・角美弥子)	2010年11月／ 武蔵野音楽大学	日本音楽芸術マネジメント学会 第3回研究大会
「地域の文化資源を活用した企画の意義と可能性―糸島市誕生記念式典『異都(いと)ジャズフェス	共同(井手詩織・福田裕美・芦川	2010年11月／ 武蔵野音楽大学	日本音楽芸術マネジメント学会 第3回研究大会

ティバル』—を事例として」	紀子)		
シンポジウム「民俗芸能公演の企画制作について～現場から見た現状と課題」	企画・コーディネーター	2010年11月／武蔵野音楽大学	日本音楽芸術マネジメント学会第3回研究大会
「民俗芸能の伝承における"記録"の役割—その系譜と課題—」	単独	2010年7月／九州大学	日本音楽学会 西日本支部 第3回(通算354回)例会
「民俗芸能の公開論に関する一考察」	単独	2012年12月／武蔵野音楽大学	日本音楽芸術マネジメント学会第5回研究大会
「どこまで知ってる? 地域伝統芸能をプロデュースする —1964年東京オリンピックを参考に2020年東京オリンピック文化プログラムを考える—」	共同(福田裕美・中坪功雄)	2013年12月／武蔵野音楽大学	日本音楽芸術マネジメント学会第6回研究大会
パネルディスカッション「2020年東京オリンピック・文化芸術プログラムで望まれる多文化コンテンツとは何か」	共同(福田裕美・門脇幸恵・荻野美智子・岡星竜美・吉原潤・中坪功雄)	2014年12月／武蔵野音楽大学	日本音楽芸術マネジメント学会第7回研究大会
シンポジウム「民俗音楽の新たな胎動をさぐる」	共同(小岩秀太郎・河瀬彰宏・福岡正太・福田裕美)	2014年12月／東京音楽大学	日本民俗音楽学会第28回東京大会
ラウンドテーブル「異文化と自文化の境界—〈文化〉再考」	共同(朝倉由希・熊澤弘・酒井健太郎・佐本英規・武田康孝・中村美帆・福田裕美・松岡昌和・八坂千景)	2018年12月／昭和音楽大学	日本音楽芸術マネジメント学会第11回冬の研究大会
「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成—クロスオーバーによる新たな価値の創出の可能性とその課題」	共同(福田裕美・赤木舞・伊志嶺絵里子)	2019年12月／昭和音楽大学	日本音楽芸術マネジメント学会第13回冬の研究大会
シンポジウム「社会とつながる音楽・芸能—その伝統と創造—」	共同(神野知恵・木村佳代・福田裕美・糺場富美子・植村幸生)	2020年11月／オンライン	東洋音楽学会第71回大会
「民俗芸能の伝承と社会包摂～政策における位置づけの変遷から」	単独	2023年12月／東京音楽大学	日本民俗音楽学会第36回東京大会

■競争的研究費等の研究課題

タイトル	制度名・研究種目	提供機関	研究期間	研究概要
民俗芸能の保存をめぐる文化財政策の研究	科学研究費補助金「特別研究員奨励費」代表	日本学術振興会	2003年4月～2006年3月	国の文化財保護政策下における民俗芸能の継承の

				実態を明らかにし、民俗芸能の保護に新たな提言を加えることを目的としており、複数の地域の民俗芸能の伝承状況を継続的に調査し、データとしてまとめ、分析を行った。
足立区内の芸能を中心とする無形の文化財の関係資料の体系的収集と整備 —今後の保存・継承と創造・発展に向けて—	東京都足立区委嘱調査研究事業 分担	東京都足立区	2006年4月 ～2007年3月	足立区内の複数の民俗芸能を調査し、その伝承状況を調査した。
芸能を中心とする無形の文化財の保護に関わる資料の体系的収集と整備	芸術団体人材育成支援事業「芸術系大学等教育機関」(調査研究・情報交流) 分担	文化庁	2006年4月 ～2007年3月	都道府県が保有する民俗芸能等に関する文献資料・視聴覚資料等を悉皆的に調査し、必要なものは提供を受けることで東京芸術大学に集積するとともに、所在情報を含めてデータベース化を行い、報告書としてまとめた。
地方公共団体保有の民俗芸能等の保護政策に係る資料の収集とデータベース化	サントリー文化財団助成事業「人文科学、社会科学に関する研究助成」 分担	サントリー文化財団	2007年4月 ～2008年3月	前年度に回答を得られなかった23都道府県に再度照会し、回答のあった12都道府県からの報告を整理し、データベース化を図った。あわせて前年度に回答のあった24都道府県の市町村に対して照会し、回答のあった市町村からの報告を整理し、データベース化を図った。
地方公共団体が保有する民俗芸能の保護政策に係る資料の収集とデータベース化	芸術活動基盤充実事業(調査研究) 分担	文化庁	2008年4月 ～2009年3月	前年度までに未回答・未照会だった都県及び市町村に紹介を行った。その結果、3か年を通じ最終的に回答が得られたのは35都府県、391市町村となった。これらの結果をすべてデータベースとして整理し、報告書

				としてまとめた。
日本の民俗芸能の記譜資料に関する基礎的研究—音楽の伝承の観点から	科学研究費補助金「若手研究B」代表	日本学術振興会	2013年4月～2017年3月	今日の日本の民俗芸能の伝承活動において多様な形態で存在する記譜資料について、複数の現地調査に基づく比較検証・分析をとおして、伝承活動といかなる関係にあるかを明らかにした。
民俗芸能公演をめぐるアートマネジメントの基礎的研究—伝承と創造の観点から	科学研究費補助金「若手研究B」代表	日本学術振興会	2017年4月～2025年3月	日本の民俗芸能が演じられる場として、土地の行事等での伝承のほか、土地を離れて多様な目的をもって企画される民俗芸能公演があり、本研究では、各団体の土地での伝承に係る現地調査とこれまでの土地以外での民俗芸能公演に係る調査を行った。
日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成	2019年度大学における文化芸術推進事業代表	文化庁	2019年4月～2020年3月	本学で有している民族音楽研究所を中心とした活動のノウハウを活かし、日本をはじめとするアジアの伝統的な音楽と芸能について、「クロスオーバーによる活用」を主たるテーマにしている。1年目は、「伝統×伝統」(伝統の継承)として伝統的な楽器、演目や演奏形式、実演技法等を活かしながら、社会の変容や本来の演奏の場から離れた公演形態のあり方を検討するためのプログラムを実施した。
日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成	令和2年度大学における文化芸術推進事業代表	文化庁	2020年4月～2021年3月	2年目は、「伝統×現代」をテーマとし、伝統の枠に捉われない現代的な公演形態や新たな作品創作の開

				拓を含む公演等を企画・運営するためのマネジメント人材育成プログラムを実施した。
日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成	令和3年度大学における文化芸術推進事業 代表	文化庁	2021年4月～2022年3月	3年目は「伝統×地域」をテーマとし、各地域の事例調査と公開報告会・意見交換会を実施した。 あわせて、3か年の集大成として、日本・アジアの伝統音楽と芸能総合アーカイブ、国内外の作品や公演等の情報の集積と発信等を主たるコンテンツとする「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントプラットフォーム」の構築と、「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメントハンドブック」の作成を実施した。
伝承を担うフィールドからまなび、ともに作り、地域へつなぐアートマネジメント人材育成	令和4年度大学における文化芸術推進事業 代表	文化庁	2022年4月～2023年3月	伝統音楽・芸能について、伝承を担うフィールド(現場)との関係性のうえにアートマネジメントの方法論を構築することを主たるテーマに、音楽・芸能の伝承をめぐる課題に対応し、且つ伝統音楽・芸能を地域レガシーと捉えて伝統を継承しつつ新たな価値や複眼的取組を創出できるアートマネジメント人材を育成することを目的とする。 1年目は、I「フィールドからまなぶ」とし、制作者が企画を立案・構成するにあたって伝承の現場に足を運び学ぶためのプ

				プログラムを開発し展開した。
伝承を担うフィールドからまなび、ともにづくり、地域へつなぐアートマネジメント人材育成	令和5年度大学における文化芸術推進事業 代表	文化庁	2023年4月～2024年3月	2年目はⅡ「フィールドとともにつくる」とし、伝承の現場から学んだことを活かしながら、伝統音楽・芸能と社会をつなぎ、伝承の未来につなぐことを視野に入れた企画制作の手法を検討し展開した。
伝承を担うフィールドからまなび、ともにづくり、地域へつなぐアートマネジメント人材育成	令和6年度大学における文化芸術推進事業 代表	文化庁	2024年4月～2025年3月	3年目はⅢ「フィールドと地域をつなぐ」とし、伝統音楽・芸能を各地の地域レガシーと捉えつつ、まちづくり・むらづくりの中核に位置付け自治体等と協同で長期的視点から地域アイデンティティの共有を促すための方法論、及び各地における多文化共生と包摂のための方法論を探求し構築する。 あわせて3ヶ年の集大成として、3ヶ年の基礎講座・実践セミナー・企画制作研修の内容をまとめた『フィールドからまなび、ともにづくり、地域へつなぐためのアートマネジメントハンドブック』を作成し、3ヶ年の事業報告と企画制作研修の成果と課題を検討するシンポジウム等の内容とする「フィールドからまなび、ともにづくり、地域へつなぐためのアートマネジメント人材育成総括シンポジウム」を開催する。
民俗芸能の伝承コミュニティと社会包摂機能に着目したアートマネジメント論	科学研究費補助金「基盤研究C」 代表	日本学術振興会	2024年4月～2028年3月(予定)	今日の政策下では日本の民俗芸能は「文化財」と

の構築			<p>「地域の文化芸術」の二つの側面を持ち、近年ともに地域における文化振興、地域の活性化、地域全体としての継承が求められる。本研究では両者を繋ぐ視点として民俗芸能の伝承が有する「社会包摂機能」に注目し、地域における伝承をめぐるコミュニティを構造的に分析する中で社会包摂機能を見出す。その上で民俗芸能の伝承活動と民俗芸能を活かした文化芸術活動について、社会包摂機能を核に有機的に結び付ける方法論の構築を目的とする。本研究は、昨今の政策でも重視される「地域における文化コミュニティの形成」を、民俗芸能を中心に実現させることを目指すための基礎研究に位置づけられる。</p>
-----	--	--	---

■その他(自由記述)

【報告書】

表題	単著・共著	発行年月	出版社・発行元
『静岡県文化財調査報告書第68集 国記録選択無形民俗文化財調査報告書 沼田の湯立神楽』	分担執筆 (編集:静岡県教育委員会文化財保護課)	2016年3月	静岡県教育委員会
『河口の稚児の舞 国記録選択無形文化財調査報告書』	分担執筆 (編集:富士河口湖町教育委員会)	2016年3月	富士河口湖町教育委員会
『東栄町の盆行事ーハネコミ・手踊り・大念仏ー』	分担執筆 (編集:東栄町盆踊り調査会)	2016年3月	東栄町文化遺産活用実行委員会
『鳥海山北麓の獅子舞番楽 :国記録選択無形民俗文化財調査報告書』	分担執筆 (編集:由利本荘市教育委員会文化課・にかほ)	2019年3月	由利本荘市教育委員会

	市教育委員会文化財保護課)		
『箱根の湯立獅子舞:国記録選択無形民俗文化財調査報告書』	分担執筆 (編集:箱根町教育委員会生涯学習課)	2021年3月	箱根町教育委員会
『日本遺産を活かした伝統芸能ライブNOBODY KNOWSプロジェクト実施報告書』	分担執筆 (編集:公益社団法人日本芸能実演家団体協議会)	2022年3月	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会